

こつ そ しょうしょう

骨粗鬆症治療と歯科治療の深い関係

骨粗鬆症治療について

「骨密度が低下して、骨折の危険があります。骨粗鬆症です。」お医者さんに言われた事はないでしょうか？

骨粗鬆症とは、骨に含まれるカルシウム等が減り、骨がもろくなる病気で、近年、高齢化に伴い、このように骨粗鬆症と診断を受け、治療をしている方を多くみかけます。以前は高齢者が寝たきりになる大きな原因とされた骨粗鬆症による骨折ですが、早期発見、早期治療により、また効果的な薬も開発され、予防する事が出来るようになりました。

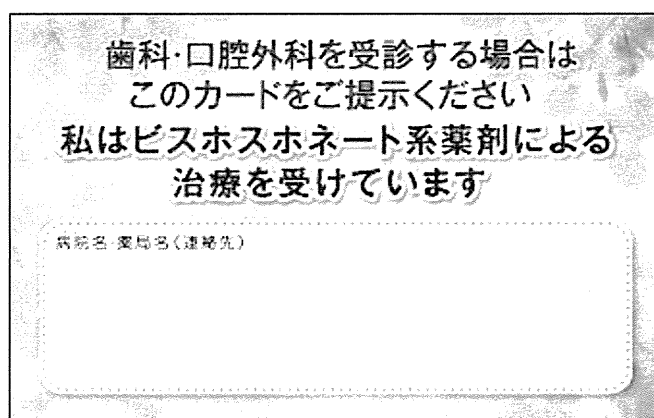
投薬時に渡されるカード

骨粗鬆症の治療に効果的でよく投与される代表的なお薬に「ビスホスホネート製剤」がありますが、服用時に注意が必要な事があります。

このお薬が出ると、同時にお知らせカードが渡されます。(図 1)

そのカードには、「ビスホスホネート製剤による治療を受けている場合、歯科の受診時に必ず提示する事」と記されています。このカードは絶対に忘れないで下さいね。

(図 1 投薬時に渡されるカード)



骨粗鬆症治療薬ビスホスホネート製剤について

私達の身体は古い細胞が新しい細胞に置き換わる事により、維持され、健康を保っています。骨の細胞も同様に、骨の新陳代謝は骨を作る細胞の骨芽細胞と古い骨を吸収する破骨細胞により行われています。ビスホスホネート製剤は破骨細胞に働き、効果的に骨粗鬆症の治療が出来ますが、注意して頂きたい事があります。

骨粗鬆症治療薬服用と歯科治療

骨粗鬆症治療によく効くビスホスホネート製剤ですが、その作用機序から、歯科治療時に注意しなければならない事があります。

歯を抜く(抜歯)ような顎^{あご}の骨に及ぶ外科処置を行うと、なかなか治癒せずに、薬剤関連顎骨壊死^{やくざいかんれんがっこつえし}が稀^{まれ}に起こる事です。これを防ぐため、抜歯前に一時的に薬の服用を止める、休薬や、薬剤の変更等が必要になる場合がありますので、骨粗鬆症治療で投薬を受けている方は、歯科受診をする際に、必ず、投薬されている事を申し出るようにして下さい。

骨粗鬆症治療薬服用と口腔内の状態

骨粗鬆症治療薬服用による薬剤関連顎骨壊死は先に述べた顎骨に及ぶ口腔外科的処置以外でも起こる場合があるので注意が必要です。

例えば、適合不良の入れ歯を我慢して使用し、粘膜の傷が深くなり、骨にまで及んだ状態を放置しているような場合、あるいは、虫歯や歯周病を長期間放置して、歯の周囲の骨に膿^{のう}み(膿瘍^{のうよう})が溜まった状態等でも起こる事が報告されています。

骨粗鬆症治療と歯科治療の深い関係

骨粗鬆症と、診断を受けて投薬治療を開始される時は、直ぐに歯科にて口腔内の診査を受けて下さい。そして顎骨に及ぶ疾患の治療は、出来る限り投薬前に済ませておくの良いでしょう。

また、投薬中は、定期的に口腔内の管理、治療を行い、健康に保つようにする事で骨粗鬆症治療も滞りなく進める事が出来、骨折、さらには、寝たきりのリスクを回避する事につながります。

詳しくは、かかりつけの医師、歯科医師、薬剤師にご相談ください。



原稿は、松阪地区医師会より提供していただいておりますが、ご意見等ございましたら、下記問合せ先までお願いいたします。

■問合せ先 多気町役場 健康福祉課 TEL (0598) 38-1114
FAX (0598) 38-1140